

今を未来に

令和元年9月10日

NRTの結果（2年生～5年生）と6年生全国学力・学習状況調査の結果から

1学期の個別懇談会の時に、NRT検査の個人結果をお渡ししました。この検査は、4月に行い、前年度の学年（例：2年生であれば1年生の時）の学習内容をどれだけ身に付けているのかを検査するものです。新しく出会った学年の子どもたちの学力面での強みと弱みをつかみ、授業改善に生かすことを目的に行っています。そのためこの結果は、連絡表の評価対象外となっています。以下に、今年度の2年生から5年生までの学年の結果をお伝えします。また、「強み」や「弱み」の分析や、それに合わせた指導の工夫・改善などについてお知らせします。

また、6年生が受けた全国学力・学習状況調査の結果も、夏休み中に出そろいました。今回は、その結果をもとにした6年生の子どもたちの「強み」や「弱み」の分析や、それに合わせた指導の工夫・改善などについてお知らせいたします。全国学力・学習状況調査についての個人表につきましては、6日にお子様へ個人表を返却いたしました。個別の詳しい結果についてはそちらをご覧ください。

本調査における47都道府県毎の正答率の差は、問題数にすると1問できるかできないかの範囲内にほとんどの都道府県が入っています。また、こうした都道府県間の差は年々縮小してきている傾向となっています。報道等により、こうした学力の一側面（数字に表れる学力）をもとにした結果の順位にばかり捉われてしまい、本来の目的（子どもたちの学力『保障』をするために指導の工夫・改善を図ること）が見失われる傾向が、ここ数年は続いているという反省があると聞いています。

私たちが分析結果を公表するにあたり、平均に対してどうであったかはお伝えするものの、その学年の「強み」「弱み」を的確につかみ、授業改善・工夫すべき点を明らかにすることを大切にしていきたいと確かめ合いました。そして、家庭学習に関わる場所は、お子様一人ひとりに自覚して欲しいと思うこと、家庭で気を付けて協力して欲しいと考えていることを書きました。ぜひご一読ください。

【6年生 全国学力・学習状況調査の結果より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

2教科ともに全国平均をわずかに下回る結果となりました。

2. 「強み」と「弱み」にかかわって

（強み）国語：漢字を文の中で正しく使うことができました。また、「読む能力」の中のインタビューの話し手に意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることがよくできていました。

算数：「数量関係」の中の棒グラフから必要な情報を読み取り、計算することができました。また、複数の数量から、必要な数量を選び、立式することができました。

（弱み）国語：「書く能力」において、報告する文章における書き方の工夫を選ぶ問題で課題がみられました。また、報告する文章に書かれていることをまとめる問題において、文字数の制限がある中で、書かれていることを取りあげながら自分の意見をまとめるなど、条件に合わせて記述をする問題に課題がありました。

算数：「量と測定」の中の示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題に課題が見られました。資料の特徴や傾向を関連付けて、一人あたりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題に課題が見られました。

いずれも、無回答はありませんでしたが、回答が不十分となっていました。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

2教科とも、全国平均・三重県の平均をわずかに下回る結果となりましたが、大きな開きとはなりません。基礎学力が定着しつつあることが分かります。基礎学力のさらなる定着を図るために、基礎学力充実タイムには計算や漢字などの基礎基本となる内容を継続していきます。

いずれの教科においても、書くことが課題となっています。国語では、条件に合わせて文章を書くこと、算数では、考え方を説明する文章を書くことに課題が見られました。そのため、普段の授業から書く機会を多く設定するとともに、条件を提示したりキーワードを使ったりして、文を論理的に書くことのできるような力をつけていきます。算数ではノートに式だけを書くのではなく、解を導いた手順や考え方を文で表す活動をさらに積極的に取り入れていきます。

4. 質問紙から見られる特徴

(子どもの学習・生活状況や学校運営に関して課題と考えられること)

・「学校のきまりを守っていますか」に対してどちらかといえば、当てはまると回答した子の割合が高い

⇒今後も「何のためにそのきまりがあるのか」を中心として子どもに考えさせ、自分が納得したうえできまりを守っていくよさを実感として感じられる働きかけをしていきます。

・学校の授業以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当りに勉強する時間や読書にける時間が短い

⇒家庭学習の振り返りとも関連させ、宿題の内容や量を見直したり、自主学習を定着させたり、読書を充実させたりといった働きかけを継続して行っていきます。図書室や図書館の利用も少ないという回答結果が出ているため、図書館まつりなど図書室を活用する機会を作っていきます。

・今住んでいる地域の行事に「あまり参加していない」と回答した子の割合が高い

・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることが「あまりない」「ない」と回答した子の割合が高い

⇒時事問題や地域教材を使つての学習を取り入れ、学んだことを普段の生活に生かしたり、行動に結びつけていくことを、低学年から積み上げていくことのできるような学習に取り組んでいきます。地域行事については「参加しよう」と家庭でも声かけをしていただきたいのですが、保護者の方自身の姿でそれを示していただくことも、長い目で見た時には大切になってくるかと思えます。

・算数の問題の解き方がわからない時に「諦めてしまう」と回答した子の割合が比較的高い

⇒学校での授業の中でも分かるまで取り組む「じっくり」の力をつけていきます。また、足場となる基礎学力の充実と発展的な学習に力を入れていきます。

・学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが「あまりできていない」と回答した子の割合が高い

⇒聴き合い・語り合う授業づくりに今後も力を入れ、子ども同士が学び合うことのできる授業づくりや課題づくりの研修を進めていきます。

・いじめは、どんな理由があっても「いけない」と回答した子の割合が非常に高い

⇒いじめやあらゆる差別をしない、いじめや差別をなくすことができるよう人権教育も大切にしています。今後もどのように生きていきたいかを考えながら、人権学習に取り組んでいきます。

5. 家庭学習にかかわって

家庭学習振り返り週間の結果から見えてきた課題を、子どもたちの指導に役立てていきます。休日の学習時間が短く、ゲームやスマートフォンに依存しているという課題を子どもが自分で見直せるような働きかけを継続していきます。次のステップである中学校に向けて、国語や算数に限らず自主学習の課題も出しています。見通しを持って、時間等の計画を立て、内容を工夫する力をつけていこうとするものです。ご家庭でお子様が

どのように取り組んでいるのかを見て、アドバイスしていただけると、お子様の学習状況をつかんだり、課題となる部分が見えやすくなるかもしれません。見えてきたこと、思われたことについて担任に教えていただくと、今後の指導の改善にもつながりますので、ぜひともお話を聞かせてください。

【5年生到達度検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語は全国平均を上回り、算数はほぼ全国平均並みという結果となりました。国語と算数を合わせた教科総合の偏差値で50（全国平均）を上回る割合が約60%となっていることや、それ以外の分布もほとんどが平均値をわずかに下回る場所に集中していることがわかってきました。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

（強み）国語：観点別の集計から「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の4つすべての観点について平均値を上回り、まんべんなく力がついていると言えます。特に、「目的に応じて話すこと」と「漢字の読み・書き」については強みが見られました。

算数：大領域の集計から「図形」と「数量関係」に強みがありました。「図形」では、垂直や平行といった基本的な図形の知識・理解とともに、ものの位置の表し方といった応用的な空間認識でも強みが見られました。「数量関係」では、百分の一の数や一兆と一億の関係といった数のしくみについての力がついていることがわかりました。

（弱み）国語：観点別の集計を相対的に見ると「書く能力」に若干の弱さがあることがわかります。「目的に応じて構成を考えて書くこと」の中で、文の組み立てを考えたり、報告文としてまとめを書いたりすることに弱みがありました。ことわざの理解、辞書の活用、修飾語や接続語の理解にも弱みがあり、『ことば』については知識・理解と活用の両方において課題があることも見えてきました。

算数：大領域の集計から「数と計算」と「量と測定」に弱みがありました。「数と計算」では、分数とその計算に大きな課題が見られます。また、分数については計算だけではなく、しくみや仮分数と帯分数の変換にも課題があります。面積の単位変換にも大きな課題が見られたこともあり、数や量のしくみを論理的に理解するとともに、『変換』する力に弱さがあると言えます。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

この学年に限らず「書くこと」に弱さがある子の多くに『書くことに対する経験不足』があるように思います。5年生の中には単に「書くこと」を面倒くさがって取り組もうとしない子がいるのも事実です。国語科における「書くこと」は、圧倒的に経験に基づきます。まずは『書く』ということ、そして書いた文を『正しく書き直す』ということがなければ、なかなか力はついていきません。話すことによるコミュニケーションが得意な子ほど、書く経験が少なくなる傾向があります。将来的なことを考えると、話す力も大切ですが、子どもたちが自分の将来の選択肢を増やしていくためには「書くこと」が必要となります。いわゆる「入学試験」や「就職試験」が、すでに記述メインに変わってきています。また、筋道を立てて「書くこと」は他教科における論理的思考を助けます。逆を考えてみると、「書くこと」をめんどうくさがってやらないということは、論理的思考力もつきにくくなるということが言えます。直接的に書けるようになるということだけでなく、広く見た『学力』をつけていくためにも土台になるものと考えています。

まずは、「書くこと」に対して意欲的になれるように短い文を書くことや、その文を意味の通った構成や正しい書き言葉を使った文に書き直すことを繰り返し指導していきます。また、何を書けばいいかわからない、どうやって書けばいいかわからない、話し言葉と書き言葉はどう違うのか、言葉のボキャブラリーが少なく言いたいことをうまく伝えられないなど、困り感を授業でも中心に据えて授業を構成していきます。

算数では、分数の理解と活用に力を入れていきます。分数のしくみや加法・減法のきまりといった復習となる部分について、整数や小数とも比較しながら整理して扱い、こういった表し方をするのはなぜか、なぜこう

いった計算方法が使えるのかといったことを意味から理解し、活用できるように指導していきます。また、整数や小数との関係や表し方が違って同じ量や大きさを表しているといった『変換』についても丁寧に扱っていきます。2学期以降に「分数のかけ算・わり算」についての単元もありますので、そこにも関連させて定着につながるよう見通しを持った指導につなげていきます。

4. 家庭学習にかかわって

家庭学習の一部として学校から出す「宿題」では、漢字ドリル・計算ドリル・自主学習か復習プリントの3つを基本的には毎日出しています。漢字ドリルでは新出漢字を練習する際に、その漢字を使って短い文を書くこともしています。また、どんな文を書いているかを見ていただくとともに、文の構成はどうか、意味が通るように助詞は使えているかも見ていただけるといいかと思います。担任の方でも見るように心がけてはいますが、なかなか見切れていないところ、直し切れていないところもあり、反省しています。保護者の皆様とともに『正しく書き直す』という部分をケアしていけると、お子様の現在の力を把握したり、「書くこと」の経験を増やしたりすることができると思います。また、自主学習の内容に「書くこと」や「分数の復習」を入れていくのも効果的です。お子様が何をすればよいかを迷っているようであれば、おすすめしてあげてください。「書くこと」については、短い絵本を読んだ感想を3行にまとめて書いたり、夕飯の作り方をレポート形式で書いたりして、自分で文を考えて書くことはもちろん、新聞のコラムをそのまま書き写したりするだけでも効果はあります。新聞のコラムは、文の構成がきっちりとしており、何度も書き写していくうちに「こうやって書けばいいのか」「こんな書き方があるのか」ということを学ぶことができます。

【4年生到達度検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語・算数ともに全ての領域で全国平均を下回る結果となりました。この結果を重く受け止め、今後の授業改善に向けて取り組んでまいります。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「話すこと・聞くこと」に関しては多くの子が理解しています。特に、話すときの工夫については一定の力がついています。

算数：基本的な加法・減法については理解しています。特に、分数の計算については91%の正答率です。

(弱み) 国語：「読むこと」の「文学的な文章を読むこと」については、大きな課題があります。特に、「叙述に即した読み取り」においては20%程度の正答率になっています。「読むこと」についての力を高めていく必要があります。

算数：「数学的な考え方」に大きな課題があります。計算のきまりであったり図形の性質を使った説明であったりの力をつける必要があります。特に「二等辺三角形の説明」については、3%が正答、50%が未回答となっております。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語は、「文学的文章を読む」基礎力をつけていくため、様子や行動、気持ちや性格を表す語彙を増やしていきたいと考えます。国語の教科書で学習する物語で出てきた言葉を調べることはもちろん、日常的に国語辞典を用いて、理解し使うことのできる言葉を増やしていきます。また、読書の習慣をつけるため、朝の読書の時間や家庭読書を大切にしていきたいと思っております。図鑑や学習漫画もよいのですが、文学的な作品も読むことができればと思います。文章を読む力は、他の教科の学習の基礎となるものですので、力を入れて取り組みたいと思っております。

算数は、「数学的な考え方」に大きな課題があります。問題文の読み取りの段階でのつまずきが見られます。今年度は「計算のきまり」「面積の測り方と表し方」「変わり方調べ」といったところでのつまずきが出るだろう

と予想されます。理解できた子に、自分の考えを図や具体物を使って説明するという学習を多く取り組むことでそれぞれに必要な力をつけていきたいと思ひます。また、今回強みとなっていた加法・減法の計算だけではなく、乗法・除法も朝のモジュール学習の時間を活用しながら定着させていきます。

4. 家庭学習にかかわって

1学期の家庭学習の振り返りでは、宿題をほとんどの子どもが忘れずにすることができていましたが、字をていねいに書くことや、わからないところを教科書などを使って調べてみるなどができることにより効果を上げることができます。家庭学習の振り返りの期間は、めやすの50分間の学習ができていても、期間が終わると宿題だけを急いで終わらせていることはないでしょうか。ゲームや動画の時間を決めるなど、自分で帰宅後の時間の使い方を考えて、自主学習にも取り組めるようにしていきたいと思ひます。

今の学習が、将来の自分を支える力になることを意識しながら家庭学習をすることができるように、学校と家庭が協力しながら子どもたちを励ましていきたいと思ひます。

【3年生到達度検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語・算数の正答率は、全体的に全国平均を下回っています。領域によっては、全国平均をわずかに超えているものもありますが、ほぼ全国平均値に近い状況です。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」はともに全国比101であり、平均的な力はついていると考えられます。

算数：「数と計算」は全国平均を上回り、平均的な力はついていると言えます。

(弱み) 国語：「読むこと」の「話題にそって話し合うこと」については大きな課題があります。全国の正答率も低かったのですが、本校の正答率はさらに低く、話の意図を読み取ることに大きな課題があります。さらに、説明的文章・文学的文章ともに全国比に到達していません。

算数：「図形」の「正方形、長方形、直角三角形」については大きな課題があり、本校の正答率は約6割弱となっています。基礎・基本の定着に向けて復習が必要であることがわかりました。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語は、「読むこと」の力を高めていくために、まずは子どもたちを読むことに慣れさせる必要があります。説明的文章・文学的文章問わず、短い文章を短時間で読む活動に朝学習などを利用して取り組み、読む姿勢づくりに努めます。その時に読むための用語やポイントなど、読む技能を子どもたちに身につけさせていきたいと思ひています。

算数では、「図形」「量と測定」の基礎的学力を底上げするために、新しい単元を学ぶ前に振り返りを行い、2年生までの知識を復習できるような授業づくりをしていきたいと思ひています。積み重ねで知識を増やす教科なので、低学年のうちに、わからなかったら戻る繰り返し学習を大切にしていきたいです。

4. 家庭学習にかかわって

漢字・計算・音読の家庭学習のリズムは整ってきている子が多い学年です。しかし、週末課題として作文ノートを出すとならち難しくなる子どもが目立ちます。読むことの手を支える「書くこと」の慣れ親しみも今後つけていくべき力だと思ひています。また、2学期以降は自主学習のやり方指導に力を入れ、自分の好きな学習を自分から取り組める積極性も身につけさせていきたいと思ひています。

【2年生到達度検査NRTの結果考察より】

1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語の正答率はほぼ全国と変わらない結果となり、算数の正答率では全国をやや上回る結果となりました。

2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「片仮名の書きと漢字の読み」と「丁寧な文と普通の文の理解」については、力がついていると言えます。

算数：「たし算やひき算の計算や式のたて方」については、大変力がついていると言えます。また、「時計の読み方」の理解も進んでいます。

(弱み) 国語：「文学的な文章や説明的な文章を読むこと」や「文や文章を正しく書く」に課題があります。

算数：「図や絵を用いて数える」や「数直線上の数」を読み取ることに課題があります。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語は、「文学的な文章を読むこと」に課題があります。教科書等の音読を何度も繰り返し、授業で読み進めた文章については読み取ることができますが、初めて読む文章への読み取りに弱さがあります。たくさん文章に触れる機会をとって、文章について自分の考えを持つことができるように学習を進めていきます。

また、「文や文章を正しく書く」課題については、授業の中で自分が体験したことについて書く機会を多く取り入れていくようにします。

算数は、「図や絵を用いて数える」に課題があります。自分の考えをまとめる時に、言葉や絵を使ってノートに書いたり、説明したりする機会を取り入れていきます。

4. 家庭学習にかかわって

毎日の家庭学習は定着してきていますが、休日の学習時間が確保できていないことが1学期の家庭学習の振り返りでわかってきました。宿題として出されているものだけでなく、読書や日記、漢字や計算など自主的な活動に取り組むことで基礎的な学力が定着します。自分で学習をする習慣をつけていきます。

【おわりに】

この内容は、子どもたちにも各担任から学年や発達段階に応じたかたちで伝えます。結果をもとに、教職員間で授業改善を図ってきたつもりですが、課題となる姿がまだまだ見られるのが現状です。もちろん教員の専門性として、授業づくりの力を高めることが必要です。校内でも研修を進め、子どもたちの「困り感」を土台とした「聴き合い・語り合う授業づくり」を進めようとしているところです。これによって、子どもたちがなかまとともに「主体的で対話的な深い学び」をすることにつながり、学力がついていくと考えています。学校全体としては、子どもたちが自分の意見を出すことや、なかまと考え合うことが、自分やなかまの学力保障につながってきていると実感しつつあるところです。今後も、指導の工夫や改善に努めてまいります。

